

よきおとずれ

カトリック釧路教会だより
第 27 号 聖母の被昇天 (2024 年 8 月 15 日) 発行



「マリアさまのころ・・・」～典礼聖歌 407 番

ヨアキム 川上 剛 神父

皆さんも気付いていると思いますが、以前教会には何でもかんでも“マリア様、マリア様、・・・”と飾り立てる信心の風潮があり、その反省から最近はそのような所が少なくなり、それはそれで良かったのですが、逆にこのところカトリック以外の教派の人からロザリオの祈り、ルルドのこと、マリアのご絵、メダイなどの信心について尋ねられることが多くなりました。皆さんはどう感じていますか。

ところで、「マリアさまのころ」の歌は幼稚園のこどもから大人までどこの教会でも親しまれ歌われるようになりました。歌詞、曲 (佐久間 彪神父) とも子供向けですが、カトリック教会の聖歌として大切に出来たら幸いです。旅する教会の母・マリアさまへの思いが、そして信心も豊かになるかも知れません。

“マリア様の心、それは青空、私たちを包む、広い青空。

マリア様の心、それはかしの木、私たちを守る、つよいかしの木。

マリア様の心、それはうぐいす、私たちと歌う、森のうぐいす。

マリア様の心、それは山ゆり、私たちもほしい、白い山ゆり。

マリア様の心、それはサファイヤ、私たちを飾る、光るサファイヤ。”

聖書に記されている数少ないマリアについての記述の中で一貫して流れているのは、「信仰の人」という姿です。

まず、ルカ福音書のマリアへのお告げ“アヴェ、マリア！”の場面では、天使ガブリエルの呼びかけに、天に向かって花を開く白い山ゆりのごとく、春を告げる森のうぐいすのごとく、万物にしみとおる神の声に耳を傾け、すべてに先立つ神の恵みを信じてマリアは「仰せのようになりますように」(ルカ 1 : 38) と答えました。

また、同じルカ福音書にあるイエスの誕生と少年時代の神殿での出来事の箇所では「マリアはこれらのことをすべて心に納めて、思いめぐらしていた」(ルカ 2 : 19、51) とあるように、ヨセフと共に羊飼いと天使たちの救いの喜びを受けとめ、身も心も成長するイエスとの日々のお会いに力づけられ、世界を包む広い大空にも似たような心で目の前

に起る出来事を深く心に留め、そこに神のはからいを信じ受けとめています。

更に、ヨハネ福音書では貧しい大工の家庭の母として、息子の死に直面しても「十字架のそばには、母マリアが立っていた」(ヨハネ 19:25)。それはこの地にしっかりと足をつけて立ち、イエスの死と救いを心から信じ見つめている強いかしの木にも似た母の姿です。

そして、最後にイエスの復活をガリラヤで目の当たりにし、世の終わりまで共にいるとの約束を信じて、サファイヤの光・聖霊に照らされて「使徒たちはマリアとともに、祈りに専念していた」(使徒言行録 1:14)。希望を新たにし、神の国を忍耐強く待ち続けるマリアの姿がそこにあります。

さあ、マリア様のイメージ・チェンジのためにこの被昇天祭にみんなで歌ってみませんか、マリアさまのこころを、コロナ後の世界に向けて・・・！



神様のお招き



ルチア 佐藤 和枝

昨年の12月に釧路へ転居し、復活祭で洗礼に与りました。東京で何年か受洗を迷っていた私でしたのに、こちらでこのように早く受洗できましたのが不思議な気持ちでした。洗礼に導いて下さった川上神父様、様々な事を教えて下さった代母の北川さん、祈り祝って下さった教会の皆様、東京で聖書や教会を教えてくれた友人達、見守ってくれた家族、何より神様からのお招きに、ありがたく深く感謝しております。

釧路で初めてのミサでは、外の寒さとは別世界のように暖かく、ストーブと畳敷の小聖堂でのこじんまりとした雰囲気にとっても癒されました。復活祭、洗礼式は、どれも厳かで感動しました。洗足式と聖歌の独唱は特に心に残っています。洗礼式の翌日、主日のミサの朝は、思わぬ出来事のために、急遽タクシーで向かうことになりましたが、その運転手さんが穏やかに心にホロリと残るお話を下さり、これも忘れられない神様からの洗礼の贈り物と、とても感謝致しました。

私の信仰のきっかけは、迷い苦しんでいた時に、人間は神様の子供であるという言葉に出会ったことです。両親の子供とは知っていたけれど、神様も親とは本当に驚きました。先日、神父様からどの人



の中にもイエス様がおられるとお聞きして、私はあの言葉で神様に救って頂いたのだと懐かしく思い出しました。

教会では、皆様が本当に神様を大切にされ、信仰を喜んでおられるお姿に出会います。まだまだわからない事ばかりの私ですが、皆様のように、神様がいつも共にいて下さることを喜ぶ者でありたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。



旅先で訪ねた教会について 1

アシジのフランシスコ 持田 誠

博物館学芸員という仕事柄、日曜日は職場を離れることが難しく、釧路教会の御ミサに与ることも、教会のお手伝いもなかなか出来ないことを、日頃心苦しく思っております。いっぼう、出張などで道内外へ出る機会が多く、主日に重なるときには、なるべく彼の地の教会のミサや礼拝に出席して、現地の方々と共に祈りの時を持つようにしています。

せっかくなので、最近、私が訪問した教会についてご紹介します。

カトリック麻布教会

数年前、東京渋谷の國學院大学を会場に、学会がありました。日曜日、学会が始まるのは9時ですが、その前に早朝ミサを捧げている教会が付近にあったら出席したいと思って調べたところ、港区西麻布にある麻布教会の存在を知りました。以来、東京の渋谷付近で日曜日に出張がある時は、仕事前に早起きをして麻布教会を訪ね、早朝ミサに出させていただくようになりました。



麻布教会は1889（明治22）年に神田教会の分教会として始まった歴史ある教会です。現在の御聖堂は東京大空襲後の再建で

1952（昭和27）年建築のもの。古い聖堂は東京の暑さの中でもどこかひんやりとしており、都市の喧騒からも逃れた祈りの空間です。

北海道へ戻ってから、早稲田大学に務める知人がここの信者であることを知り、勝手に親近感を抱いています。

カトリック富良野教会

今年の3月、芦別市の図書館で短い講演をする仕事がありました。あいにくの雪で汽車が遅れる可能性があったので、やむを得ず自動車で狩勝峠を越えて行くことになりました。



途中、富良野市に入ったのが8時過ぎ。御ミサの時間には早く、まだ誰もいないだろうと思いつつ富良野教会へ行くと、ちょうど信者の方が除雪作業をされていました。声をかけると快く中へ通してくださり、御聖堂で祈りを捧げさせていただくことができました。

旭川の教会から神父様が通っているようですが、やはり雪の影響で富良野線が遅延しており、今日のミサは集会祭儀に変更になるとお話しされていました。

建て替えられて間もない御聖堂は、隅々まで清掃が行き届いていて美しく、そのことを告げると信徒の方がとても喜んでおられました。

*小樽の住ノ江教会と仙台の元寺小路教会は次号に掲載いたします。



新川集会所の解体・感謝祝福式

5月14日、新川集会所で、解体・感謝祝福式が開催されました。当日は24人ほどの参加があり、業者の方も一緒にセレモニーを行いました。



編集後記

ふわりと草木の香りを連れてそよぐ風に、小気味よい高い音で答える風鈴が真夏を知らせる8月を、皆様方いかがお過ごしでしょうか？さて、私事ではありますが、本年度より、広報・行事部で活動することとなり、1回目の打ち合わせでいきなり不慣れな編集後記の作成を任され幾分、緊張気味で作成しております。

コロナウイルスもほぼ収まり、今まで延期や中止で自粛していた教会の活動や行事等が、今後は実施されることとなると思われますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

(Y.K)

カトリック釧路教会 〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会